

第3回ノアンフェスティバルショパンインジャパンピアノコンクール 受賞者体験レポート～ショパン・ナイト編～

中西 知子さん

B1 部門 第1位、ショパン・ナイト受賞 2022年10月渡航



ショパンの命日にフランスのお城に演奏者としてお招きいただくという、まるで夢のような素晴らしい機会をいただき、感謝でいっぱいです。

絵本に出てくるようなのどかなノアンの村、森の奥にたたずむ美しい古城であるアルス城、見学させていただいたサンドの館…あらゆる所にショパンの音楽が宿っているように感じられ、私はその場の景色、雰囲気全てを大切に味わうようにしながら過ごしました。アンリ先生に温かく、弾く喜びに満ちあふれるような演奏となるようにお導きいただき、いよいよ本番の夜を迎えました。

アルス城にて、凜とした静けさの中、満席のお客様の前でショパンに思いを馳せながら演奏できたことは私の一生の宝物です。

アンリ先生、ベヒシュタイン・ジャパンの皆様にご心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。



藤澤 亜里紗さん

A3 部門 第1位、ショパン・ナイト受賞 2022年10月渡航



ショパン・ナイトを振り返って
ショパン・ナイトでの出演を通じて、一生の思い出に残る貴重な経験をさせていただきました。

パリからSNCF(鉄道)に乗り、風車が回る、緑豊かな田園を過ぎノアンに到着すると、そこはまるでシルバニアファミリーのような古き良きレンガ造の可愛らしい街並みが広がっていました。駅から会場までの道のりは、どこまでも広がるまっすぐな道路と田園風景が広がっており、19世紀に実際、ショパンが馬車で通った道を今まさに自分も！！と着いた早々時代を超えてショパンを身近に感じる事ができました。

会場に到着すると、満点の星空の中、ライトアップされた迫力満点のお城が出現し、とてもロマンチックな佇まい。サロンホールにはショパンが愛したショパン時代のプレイエルと、2022年製の新品のプレイエル2台が置いてあり、アンリ先生の公開マスタークラスではなんと、弾き比べをさせていただきました。現代のプレイエルも、日頃使用しているピアノと比べ、ペダルの数やタッチの感覚など異なる点がありましたが、古楽器のプレイエルは19世紀の香り漂う優しい音で、ショパンのペダリングの拘りや、メロディーラインの美しさなど、古楽器で弾くことにより、改めてショパンの音楽の美しさや才能を堪能する事ができました。

アンリ先生のレッスンでは、ショパンがどのような和声美で作曲したのか、曲の分析やタッチ、ペダリングなどを教えて頂き、アンリ先生の手にかかる魔法のように、フランス満載でお洒落なノクターンは、目から鱗、驚きばかりの刺激的なレッスンでした。

ジョルジュ・サンドの館も急遽観光させていただき、実際にショパンが住んでいた部屋や、食卓、プレイエルのアプライトピアノなどを見学する事が出来ました。

ショパンナイトでも弾かせていただいた「ピアノソナタ第2番 葬送」はサンドの館で作曲された為、行く前からずっとワクワクしていたのですが、実際に自分の目で見る事ができ、書物では味わえないリアルさにとっても感動を覚えました。

そしていよいよショパン・ナイト当日、満席のお客様の中、美しく響くプレイエルの音色を堪能し、ただただ幸せな時間を過ごすことができました。

そして割れんばかりの拍手を頂き、音楽に言葉の壁は無いことを改めて実感しました。

今までの人生において、これほどショパンを身近に感じ、夢のような時間を過ごしたことは初めてでした。ノアンの地で堪能したショパンを今後の演奏に活かせるよう励みたいと思います。

そしてまたいつの日か、ノアンを訪れる事ができますように。ショパンと共にこれからも音楽人生を過ごしたいと思います。

このような機会をくださったアンリ先生、ベヒシュタイン・ジャパンの皆様さま、この度は本当にありがとうございました。

